

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL

68

2022

「新居」よりお届けするベストな診療を目指して

- DOCTOR'S VOICE 01 女性患者さんに丁寧に向き合いベストな診療を
- DOCTOR'S VOICE 02 子どもの居心地の良さと治療に集中できる環境
- DOCTOR'S VOICE 03 いつも通りの透析治療が受けられるという安全・安心を提供
- DOCTOR'S VOICE 04 高度で専門的な集学的治療で患者さんの早期回復を目指す



乳腺センター

女性患者さんに丁寧に向き合いベストな診療を

乳腺センター センター長 亀井義明

日本人女性の「9人に1人」が罹患する乳がん。日本では今も増加傾向で女性のがんとして患者数が1位になっており、残念ながら愛媛県も同様の傾向です。2011年の乳腺センター設立から10年が過ぎ、2名だったスタッフも10名を超えました。最初は外科外来の1室から始まり、2013年には新外来棟2階に移転し3室に。患者数増加を受け2022年1月から3階へ移転。診察室3室・エコー室2室の計5室になりました。待ち時間も短縮され、今回の移転は患者さんへのサービス向上につながりました。スタッフ全員が心がけていることは「目の前にいる患者さんのためのベストな診療」です。大学病院として最新の高度医療を提供することももちろんですが、患者数が多くなっても患者さん一人一人のお話を十分に丁寧に聞くことを忘れず、常に目の前の患者さんのためになることを全てやろうと考えています。乳がんでは薬物療法の進化がとても速いです。最新の知見を集め、患者さんに還元することを日々実践しています。



PROFILE

かめいよしあき◎1995年愛媛大学医学部卒業。第一外科に入局、県立中央病院、市立宇和島病院、今治市民病院、松山市民病院、がん研有明病院乳腺センターを経て2011年から現職。趣味はサッカー・野球観戦。

子どものこころセンター

子どもの居心地の良さと治療に集中できる環境

子どものこころセンター センター長 堀内史枝

子どものこころセンターが移転しました。移転にあたり、子どもたちが気持ちよく過ごせるよう家庭に近い空間作りにこだわりました。靴を脱いで入る玄関、床は頭をぶつけても痛くないコルク材、子どもたちが座るところは床暖房、プレイセラピー専用のお部屋も準備しました。小児科との協働により、こころも体もサポートできる体制が当



センターの特徴です。新規の受け入れを週1回から3回まで増やしました。子どもたちの困りごとや悩みに少しでも早く寄り添いたいと思っています。ぜひ、ご相談ください。



PROFILE

ほりうちふみえ◎1998年愛媛大学医学部卒業。雄岡病院、ロンドン大学を経て2015年から現職。専門は児童青年精神医学。趣味はサウナ。



附属病院正面玄関横・多目的棟のご案内

2021年3月に、附属病院正面玄関横に多目的棟が開設しました。2階にはリハビリテーション部が移転し、1階には薬局が開店しています。また、薬局の隣にはコンビニエンスストア（セブンイレブン）がございます。お昼時など、お買い物にぜひご利用ください。

透析治療部

いつも通りの透析治療が受けられるという安心・安全を提供

透析治療部 部長 菊川忠彦

透析治療は末期腎不全の方が生命維持をするために必要不可欠の治療法です。患者さんが維持透析のために通う病院は決まっています。病気やけがで高度な手術や検査、治療を受けるために当院へ来た際に、透析治療を提供するのが透析治療部です。患者さんが治療施設の変更によって感じる不安を解消し、普段受けている維持透析と同じような治療を受けられるよう心がけています。また、患者さんが透析治療を始める際の導入サポートも行っています。当院は県内で唯一、透析施設に精神科を併設しています。精神疾患を合併した透析患者さんは、当院透析治療部があることで入院治療を受けることが出来ます。この4月からは透析室が拡張し2床増え、8床による受け入れ態勢となりました。増床により、治療スペースの拡充による安全な対応や、コロナ禍の中で治療を控えていた透析患者さんの県内病院からの多くの受け入れが可能になりました。今後も、安心・安全な治療を提供できるよう努力して参りますので、ご質問、不明な点等ございましたらお気軽にご連絡ください。



PROFILE

きくがわただひこ◎1995年宮崎医科大学（現：宮崎大学）医学部卒業。2014年から現職。専門は尿路腫瘍、ロボット支援手術、腎不全、放射線治療。趣味はゴルフ、野球観戦。

集中治療部

高度で専門的な集学的治療で患者さんの早期回復を目指す

集中治療部 部長 高崎康史

集中治療部はICUとICU2に分かれており、それぞれ8床と14床の計22床となっています。ICUは侵襲が大きい手術後の患者さんをメインに、麻酔科蘇生科出身の専従スタッフ3人が各診療科の主治医と協力して診療に当たっています。ICU2は現在、コロナの重症患者さん専用の病棟として、救急部の先生方が中心となって診療しています。ICUには年間で約800人の患者さんが入室されます。7～8割は術後の患者さんで、残りが病棟で入院している重症の患者さんや、救急に運ばれてきたコロナ以外の重症の患者さんです。全体の半数は人工呼吸器をつけており、そのうち6割が心臓手術後の患者さんですが、多くの方は1～2日で人工呼吸器を離脱し、早期にリハビリを開始しています。また県内で唯一、左心の補助循環による心不全治療を行っており、その後植込み型補助人工心臓の術後管理に対応することもできます。年間で10例ほどある生体肝移植、食道がんの縦隔鏡を用いた低侵襲手術の患者さんの術後の全身管理も対応しています。集中治療専門医の認定施設でもあるため、専門医の育成にも力を入れ、集中治療の専門的知識とスキルを持った人員の拡充によってより多くの患者さんの受け入れを目指しています。



PROFILE

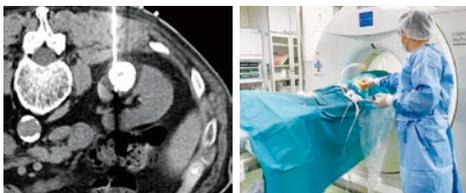
たかさきやすし◎1987年愛媛大学医学部卒業。市立宇和島病院救急センター長を経て2019年より現職。専門は麻酔一般、集中治療一般。趣味はスポーツ観戦（特にPGAツアーなど）。

TOPICS



令和3年度臨床研修プログラム 修了式を実施

令和4年3月25日(金)、地域医療支援センターで、令和3年度臨床研修修了証授与式を実施しました。臨床研修修了証授与式では、杉山隆病院長から、「新型コロナウイルス感染症の影響で研修にも制限がかかり、様々な困難があったと思うが、未曾有の危機の経験を活かしてほしい」と激励の言葉が贈られました。初期研修のうちに指導医等から医師としての姿勢や基本的な診療技術を学び、今後は、それらを活かして、患者さんに最高の医療を提供できる医師、歯科医師になることを期待しています。



腎がんに対する 経皮的凍結療法の導入

令和3年5月より、当院では、泌尿器科と放射線科が連携して、腎がんに対する経皮的凍結療法を導入しています。本治療は愛媛県内では初めて導入される治療法で、手術よりも短い入院期間で、局所麻酔のみで治療が可能であり、治療時間は1時間半程度です。さらに、腎臓の機能を温存することができ、治療5年後に再発なく生存している割合は90%程度と、手術に匹敵する良好な治療成績が期待できます。体の負担が少ない腎がん治療として注目されており、合併症などで手術治療が困難な患者さんにとっても、治療の機会をご提供できる可能性があります。



看護師特定行為研修修了式を開催

令和4年3月1日(火)、地域医療支援センターで、看護師特定行為研修1期生の修了式を実施しました。修了式では、萬家俊博副病院長から、「各職場でリーダーとして活躍し、安心して特定行為をお願いできる看護師が今後も増えることを期待している」と修了生へのお祝いの言葉と、久保幸前看護部長から、「仕事と両立し研修をやり遂げ、修了証を授与されたことに自信を持って、現場での実践に取り組んでほしい」と修了生に激励の言葉が贈られました。当院では、今後も看護師特定行為研修の実施を通じて、地域医療に貢献する看護人材の育成に取り組んで参ります。

連携病院長会議を開催

令和4年3月5日(土)、当院と県内外の医療機関が医療連携や情報共有をすることを目的とした第34回愛媛大学医学部連携病院長会議をオンラインにて開催しました。総会では厚生労働省の坪井宏徳医療労働企画官から、医師の働き方改革に関する講演がありました。

エイズ診療ネットワーク会議を開催

令和4年2月22日(火)、県内のエイズ診療体制の充実を図ることを目的とした標記会議をオンラインにて開催しました。現状報告に加え、医療法人ほこいし医院の銚石文彦院長が性教育の現況から見たエイズ診療について講演し、参加者の理解を深めました。

医学部創立50周年 記念ウェブサイトを開設

令和5年9月29日に医学部が創立50周年を迎えるにあたり、記念ウェブサイトを開設しました。記念のご挨拶や寄附のお願いなどを掲載しており、順次更新予定です。ぜひご覧ください。



今月の1枚



2021年10月11日より、看護外来が1号館1階の患者図書室の隣に移転しました。私たちが担当します。

#看護外来 #糖尿病看護
#禁煙・在宅酸素療法
#自己導尿 #子育て支援
#スキンケア #がん看護



編集後記

本号では、場所を新たにすべ最適な診療を目指す部署および、新型コロナウイルス感染症拡大により耳にする機会が増えた集学的治療に関わる部署をピックアップしました。トピックスでは、新たに羽ばたく研修医と看護師、腎がんの最新治療、愛媛県内における病院連携や診療ネットワーク、医学部創立50周年記念のウェブサイト開設について取り上げました。ぜひご一読ください。

広報委員会委員長
熊木天児



今月の表紙

病院長 杉山 隆
看護部長 崎田智美(2022年4月就任)
総合臨床研修センター長 熊木天児
研修医 新人看護師

